

# 永遠の水のひろがり

(昭和二十七年寮歌)

村上啓司君 作歌

田畑実君 作曲

一

永遠の水の広がり  
去にし全ての名残りをしるす  
陽の光水の面にわたらず  
厚き雲の低くたれたり  
大いなる水と強き風との  
須臾なる静けさ今ぞ破れん  
無限の過去の名残りを無みと  
今こそ吾等雄々しく立たん

二

再びす宣臂の叫び  
血をもて駈りし訓えを忘る  
屈辱の条文は結ばれ  
時の声の高く顫る  
核崩壊なる強き力は  
生命と愛とを毀ち捨てなん  
再び過去の犯ちせじと  
今こそ吾等凜乎と起たん

三

北国の樹々の直さよ  
牧場の草の色の濃緑さよ  
永き冬厳しき試練に  
打ち耐えたる姿美わし  
潮風荒べる荒磯にさえ  
名もなき草木の生をば享受ぬ  
自然の真理の頌歌を唱い  
今こそ吾等深く究めん